

日本

鉱工業生産指数（2019年9月）

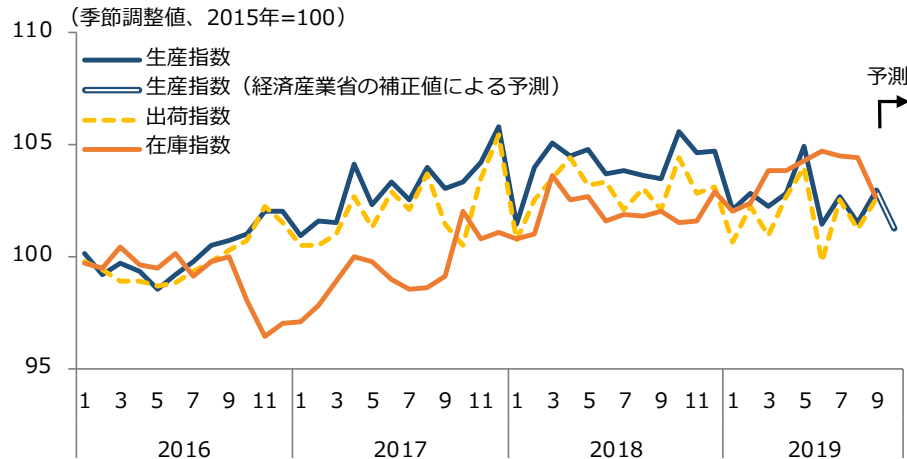
輸出の減少基調を背景に、生産は低調な推移が継続

政策・経済研究センター

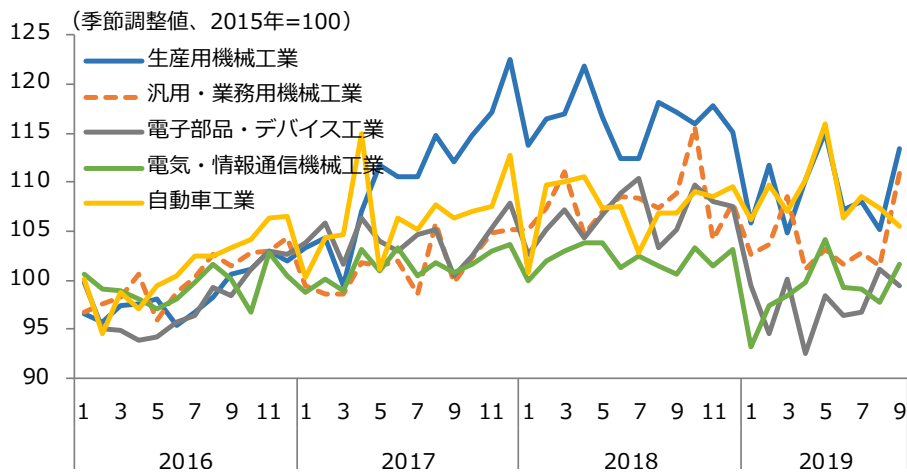
田中康就

03-6858-2717

1 鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



2 業種別の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 9月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+1.4%と、2ヶ月ぶりに上昇した。ただし、四半期ベースで見ると、19年7-9月期は季調済前期比▲0.6%と2四半期ぶりに低下した。
- 業種別にみると、15業種のうち7業種が上昇。汎用・業務用機械工業（季調済前月比+9.4%）や生産用機械工業（同+7.9%）は、アジア向けを中心に輸出の減少傾向が続いているものの、9月は高い伸びとなり、全体を押し上げた。
- 世界的な半導体関連需要の調整が下押し圧力となっている電子部品・デバイス工業（同▲1.8%）は、3ヶ月ぶりの低下となったが、19年半ば以降は持ち直しつつある。
- 自動車工業（同▲1.7%）は、2ヶ月連続で低下した。19年半ば以降、米国向け輸出が減少に転じており、自動車生産の重石となっているとみられる。
- 製造工業生産予測調査によると、19年10月の生産は季調済前月比+0.6%と見込まれている。予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値は同▲1.6%程度であり、10月の生産は減少が予想される。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、中国などアジア向け輸出の減少や、世界的な半導体関連需要の調整に加え、19年半ば以降に米国向け輸出も減少に転じたことから、緩やかな低下傾向にある。
- 先行きも、生産指数の低調な推移を予想する。国内向けでは、消費税増税後に国内需要の伸び鈍化が予想され、生産の抑制要因になろう。海外向けでは、米中摩擦の激化による海外経済の減速などを背景に、生産に占める輸出比率が高い電子部品・デバイス工業や生産用機械工業、汎用・業務用機械工業、自動車工業などで弱い動きが続くと見込まれる。
- 生産の下振れリスクとしては、①世界経済の一段の減速や、②輸出減少の波及や株安などによる国内需要の悪化、③金融市場における一段の円高進行、が挙げられる。